

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大開小学校	学校	児童数	45
-------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.83	19.96	31.08	37.67	45.68	9.15	156.55	22.60	53.26
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	13.81	17.75	33.67	34.70	36.60	9.76	148.33	11.38	52.94
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の令和6年度の結果では、男子は、上体起こし、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの4種目が市平均・全国平均を上回った。女子は20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびの3種目で市平均・全国平均を上回った。一方、筋力・柔軟性・敏捷性に課題が見られ、特に柔軟性を測る「長座体前屈」では、全国平均と比べ、男子は2.71ポイント、女子は4.52ポイント低くなっている。今後の課題となっている。体力合計点をみると、男子では市平均・全国平均を上回り、女子では市平均を超えて、全国平均に迫る値となっている。男女共、昨年度より向上しており、一定の成果が表れていると言える。

アンケート項目にあった「運動やスポーツをすることは好きですか」の肯定的な回答が男女ともに95%と全国平均を上回った。そのほかの質問においても肯定的な回答が多く、運動に対する意識の高さが見られた。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は昨年度より向上している。普段から運動に親しんでいる児童は、運動能力が高いことがわかった。一方、運動に関わる機会が少ない児童は、市平均・全国平均を下回る結果となっているため、体育の授業や校内で行っている運動の取組等を通して、様々な運動の習慣化を図る必要がある。

今年度の課題として、柔軟性の結果が低くなっている。準備体操時に柔軟運動を取り入れていくことや、柔軟性とケガの関わりについての学習を通して家庭でできるストレッチを紹介していくこと等で、一人ひとりの意識を高めていくようにする。

今後は、運動に苦手意識がある児童でも体を動かす機会を増やしていくようになると、「運動だいすき週間」の学期に1度の実施や運動委員会が中心となって「運動紹介動画」を作成し周知するなど、運動する機会の設定を継続的に図っていく。